大阪府都市基盤施設維持管理技術審議会　平成26年度第1回　河川港湾公園部会　議事要旨

日　時：平成26年5月1日（木）　15:30～17:30

出席委員：河野教授（部会長）、杉浦教授、長尾教授（50音順）

議事次第：１．第2回幹事会及び第4回全体検討部会の報告

　　　　　　　　２．効率的・効果的な維持管理手法の確立

　　２－１．点検及びデータの蓄積について

　　２－２．維持管理手法の検証について

【議事１】第2回幹事会及び第4回全体検討部会の報告

○事務局より、第2回幹事会及び第4回全体検討部会、並びに平成25年度河川港湾公園部会について審議内容を報告

○各委員からの意見

・本審議会は各部会と全体検討部会や幹事会と連携して進めるものであり、各部会等で議論したポイントをまとめて提示する必要がある

・今後の進め方の記載内容について、一部修正意見

「市町村・大学などのニーズの把握」⇒「大学のシーズを把握して市町村のニーズを踏まえた地域連携モデルや試行の実施の検討」

【議題２－１】点検及びデータの蓄積について

○事務局より、点検及びデータの蓄積手法、現状における問題点や改善策について説明

○各委員からの意見

・点検結果等を電子情報化して一元的に管理することは重要。点検結果をデータ化する手法、データの引き継ぎ方法等を検討し、将来の維持管理に繋げていくことが必要。

・予防につながる維持管理をするために必要なデータは何かを検討して、そのデータだけを取得すべき

・過去の補修データから不具合が発生の傾向を把握すれば、重点的に点検すべき箇所が見える

・損傷のしやすさ、第3者への被害の大きさ、変状による構造物への影響など、それぞれの特性を勘案して、点検の重点化を図ることも必要

・河道管理などデータのあるものは予測が可能かもしれないが、調査結果のみでなく、周辺の洗掘状況や修繕履歴などがなければトレンドは読み取れない

【議題２－２】維持管理手法の検証について

○事務局より、現在の維持管理手法、今後の維持管理の方向性、現状における問題点や改善策、及び今後の維持管理手法（案）、新たな調査により必要となる費用について説明

○各委員からの意見

・空洞化の調査結果を分析し、どのような場所で空洞化が発生しているのかを調査すればパターンが読めるため、空洞化調査にかける費用を適切な価格に収めることができる

・構造物の劣化調査も重要であるが、使用制限などを行うことで、劣化がある程度進行してもまだ大丈夫という判断をすることもできるかもしれない

・詳細点検の実施頻度は、損傷の進行具合に左右される。過去の経験や他事例などを踏まえて判断し、適切な頻度を設定する必要がある。また国の基準などとの整合にも留意すべき

・点検や評価、判断を行う人は、それぞれで必要なスキル・レベルが異なる。損傷から原因を推定し、必要な調査は何か、補修を行うべきかを判断するには高度な判断力が必要。府としてどのように技術者を育成し、どの部分を外注するのかを考えていかなければならない